

考動・躍動・感動

自分に何ができるか？

「自分が周りに何ができるかを考えてほしい。」

福祉講演会の最後に、講師の方がみんなに投げかけた言葉です。今回の福祉講演会は、あくまでもきっかけ作りです。何人かの感想にもありましたが、「今回の講演会を通し、学んだり感じたりしたことを、これからどう生かしていくか？」ということが大切になってきます。「自分に何ができるか？」を考えながら、少しずつでも自分にできることから始めていきましょう。



(福祉講演会の内容)

○介助犬について説明

- ・全国で65頭 ※愛知県で2頭
- ・『肢体不自由者の自立支援をお手伝いすることがねらい』

○介助犬によるデモンストレーション

- ・物を拾う。
- ・靴と靴下を脱がせる。
- ・冷蔵庫の中から飲食物をとってくる。
※扉が閉まっているか入念に確認
- ・携帯電話を探して持ってくる。

○生徒代表による模擬体験

○質疑応答

【☆みんなのキラリ☆】

○先週の金曜日、雪がたくさん降る中での登校でしたが、ほとんど遅刻をする人がいませんでした。きっと普段よりも登校時間はかかったと思いますが、そのことを予想して、少し早めに家を出たのでしょう。家族からのアドバイスもあったかもしれませんが、“その場その時の状況に合わせて、臨機応変に対応していくこと”は、社会に出ても大切なことです。

○先週の木曜日、3年生を送る会に向けて、クラスを解体して15分間だけパート別の練習を行いました。ほとんどの人が初めての練習だったにもかかわらず、楽譜を見ながら“歌おうとする姿勢”を見せてくれました。合唱は、3年生を送る会の学年としての出し物・贈りものです。意義を理解し、心を込めた歌声を届けたいと思います。



○先週の金曜日の福祉講演会では、多くの方が講師の方の話をしっかりと聞き、『介助犬』について学習することができました。室長の人たちも自分の役割に責任をもち、取り組むことができました。雪の中、みんなのために来てくれた講師の方・介助犬も、気持ちよく帰ってくれたと思います。

4月当初に、『みんなの☆キラリ☆と光る一面』を紹介していきたい。「(「考動・躍動・感動」4号より)」という話をしました。いよいよ一年生も残り一ヶ月となりました。このコーナーを増やしていけるような、みんなの姿に出会いたいと思います。

介助犬の特訓は褒めて成長すること、落としてしまった物を拾うという仕事は介助犬にとって遊びだということに驚きました。冷蔵庫は開けたら閉める、洗濯物はかごに引っかかっていたらダメなど、細かい所までしつけをされているので、(使用者は)安心だと思います。(A組 梶川智子さん)

介助犬は賢くしつけられているなど思ったけど、介助犬だけではできないこともあるだろうから、もしこれから障害をもった人を見たら助けてあげようと思った。(A組 若杉奈那華さん)

身体に障害がある人がカギをとることは難しいとは思わなかった。介助犬がいたらどこにあるか分からない携帯も探してくれるなんて、すごいと思いました。もしも身体に障害がある人に会ったら助けようと思いました。(B組 天野優さん)

今日、介助犬を初めて見ました。物を拾ってくれたり取ってきてくれると聞いて、正直「介助犬っていったって犬でしょ?」と思っていました。でもちゃんと物を探して取ってきてくれたので、しっかり訓練されているんだなあと思いました。これからどんどん介助犬が増えて、たくさんの方の介助犬を使用したい人のために役立ってほしいと思いました。(B組 廣瀬未奈さん)

介助犬は身体の不自由な人にとって本当に大切なことだと思います。講演を聞いて、介助犬は本当に賢いと思いました。身体の不自由な人が一万人ほどいるのに、介助犬が65頭なのでもっとたくさんの犬がいるといいなと思いました。(C組 小川琉奈さん)

介助犬はほぼ人と同じことをしてくれるから、すごいと思った。人に頼んだりするとこっちも気を遣うし、相手も大変だけど、介助犬は遊び感覚でやってくれているのでいいなと思った。まだ65頭しかいないので、もっと盲導犬のように普及できたらいいと思う。介助犬にもできないことはたくさんあるので、もし見かけたら声をかけたり手助けしたりしたい。(C組 竹元綾乃さん)

介助犬の役割が今イチ分かっていなかったけど、今回の実演を見て「介助犬ってすごい!」「介助犬にとってしつけられることは楽しいんだ!」と思いました。将来、保育士になりたいと思っていたけど、介助犬をしつける人になりたいという思いも出てきました。(D組 大平雅比さん)

介助犬はカギを拾ったり冷蔵庫から飲み物を取ってきたり便利だが、一頭にかかるお金が高すぎるのが問題だなと思いました。このことから、困っている人がいたら「どうしたんですか?」と聞くことが大切だと思います。

(D組 松原圭吾さん)

介助犬は物を落としたり物を探しに行ってくれたりして、すごい犬だなと思いました。そして、しつけは怒って育てるのではなく、ほめて育てていくことにビックリしました。ほめて育てているのに、あんなにすごい犬になるんだなあと思いました。これから私も、何かできることがあったら身体の不自由な人を助けたいと思いました。(E組 高木優里さん)

介助犬は身体が不自由になった人のサポーターをしていて、楽しみながら落としてしまった物を拾ったり、何か物をとってきたりしていることを知りました。介助犬にもできないことはあるので、もし困っている人がいたら助けてあげたいと思います。(E組 森ななみさん)

講演会を見て・聞いて、犬がとても賢くて頭がいいと思いました。人間の言った言葉を理解して、落とした物をとりにいったり物を探したりするなど、障害者にとって介助犬は大切な存在なんだなと思いました。(F組 伊藤隼也斗さん)

講演会を聞き終えて、不自由な人を助けるボランティアの人たちが増えていことが分かった。介助犬が訓練を楽しくやっているなんて思いもしなかった。これからは不自由な人(困っている人)を見かけたら、ちょっとしたことでも助けようと思いました。(F組 加藤祐亮さん)

今回私が学んだことは、障害者にとっての補助犬の存在の大きさや大切さです。今まで一人でできなかったことが、補助犬のおかげでできるようになり、自分一人でも生きていけるんだという自信につながり、今まで背負っていた不安も消え、気持ちが楽になるんだなと思いました。補助犬は人の身体をサポートするだけでなく、人の心もサポートできる障害者の方たちにとって、とても大きく大切な存在であるということ学びました。(G組 羽田綾華さん)

介助犬の仕事は人の身体を支えるだけでなく、心も支える仕事なんだと思った。まだ頭数が少ないので、いろいろな人に知ってもらいたい。とても大変な仕事だけど、レディは頑張っているので応援したい。(G組 野中翔馬さん)

僕は身体の不自由な人を助ける犬を初めて見ました。大事な仕事をしている犬はすごいなと思いました。全国で65頭しかいないと聞いたので、できるだけ多くの方が使えるようになってほしいです。(H組 大島竹晴さん)

靴と靴下を脱がす時に、靴下が破れないように靴下を噛む力を変えていたので、とても驚きました。どんな人の言うことでも聞いていたのですごく良かったです。(H組 西尾元希さん)

